

第六期長期計画・調整計画市民会議（第1回）会議録

■日時 令和4年6月13日（月）午後7時から9時

■場所 武蔵野市役所 412 会議室

1. 開会（午後7時）

事務局より傍聴及び議事録（全文録）の公開について委員に諮り、承認いただいた。

2 市長挨拶

市長より挨拶を行った。

3 委員自己紹介

【石井委員】

石井ちはると申します。吉祥寺本町に住まって 35 年ほどたちました。以前、だいぶ前になりますけれども、武蔵野市の緑化環境市民委員ですとか、都市計画審議会委員も携わらせていただきました。その後、何もお役に立てていないものですから、長年住まったところで何らか考えていきたいという、いい機会をいただいたなと思いまして、応募させていただきました。市民会議の皆様のご意見を伺いながら、自分なりに考えてお伝えできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【伊藤委員】

こんばんは。八幡町から参りました伊藤さつきと申します。よろしくお願いいたします。地域では、学校関係のほうでお手伝いをさせていただきます。あとは防災のほうも少しやっていますので、お顔を見知った方もいらっしゃるかなと思いながら、きょう、参加させていただきました。今生きている私たちだけではなくて、未来の子どもたちが幸せに暮らせる武蔵野市というのを心から願っています。そんなお話を皆さんとできたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

【大上茂雄委員】

桜堤の大上茂雄と申します。長計とのかかわりは、桜堤にある児童館がなくなるのではないかとということで、五長調のころからウオッチングさせてもらっています。個人的にパブコメで参加していました。今回は市民会議で参加させていただけるということで、あり

がたく思っています。よろしくお願いします。

【大上由紀子委員】

大上由紀子と申します。桜堤に住みまして 21 年ぐらいだと思います。私は、前回の第六期長期計画で公募市民の立場として策定に携わらせていただきました。ちょうど六長が走り始めたころにコロナの流行が始まりまして、そこからどのようにこれからこの計画が変わってゆくのか、とても行く末を気にしていたので、ダメもとで応募してみました。今回、参加できてうれしいです。よろしくお願いいたします。

【太田委員】

こんばんは。太田克彦といいます。中町から参りました。生まれてから、転勤等で 10 年弱は除いて、ずっと親の代から同じところに住んでおります。家の前が第一小学校と第一中学校の通学路に当たっていきまして、無邪気な子どもたちの通学の姿を毎日見ているわけですが、この子たちが安心して安全に成長して、幸せになるようなまちにぜひしていきたいなと思って参加しました。こういう集まりに参加させていただくのは初めてでございます。よろしくお願いいたします。

【大谷委員】

こんばんは。大谷と申します。桜堤の玉川上水のほとりに住んでいます。生まれてから育って、途中、転勤等で武蔵野市を離れましたけれども、大体 45 年ほど武蔵野市に住んでいるという形です。ぜひとも自分の子どもがいつまでも住みたい、とてもいい、逆に友達に大きくなったときも紹介できるぐらいな武蔵野市でありたいなというところで、ぜひそれにご協力できればなと思ひまして、応募させていただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

【大村委員】

北町に住んでおります大村武志と申します。私、2011 年の 3 月まで、練馬の石神井にいたんですが、4 月から武蔵野市に参りました。しかしながら、間もなくアメリカに転勤になって、その後、メキシコにも行って、去年の 7 月まで富山の砺波市にいたんですが、こちらに家族とともにそれ以来住んでおります。武蔵野市は市民参加型の市政ということで、今後、積極的に活動していきたいなと思っております。何名かの皆様がおっしゃったように、子どもたちが楽しくいきいきと生きていけるような環境づくりにも協力していきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

【上遠野委員】

皆さんこんにちは。境から来ました上遠野智之と申します。私は、武蔵野市に来たのは、たまたま学校を出て就職をしたときに、最初の配属先が吉祥寺の事業所だったということで、それ以来、非常にこのまちを気に入りまして、以来 44 年ほど武蔵境に住んでおります。最初の半分は境南町、今は境なんですけれども、武蔵境というのは、皆さんよくご存じだと思うんですけれども、武蔵野 3 駅の中でもおそらく一番駅周辺は変わった地区ではないかと思うんですね。中央線の高架化から始まり、今でしたらプレイス、私はほぼ毎日行っています。そういうことで非常に住環境がよくなったんですが、一方で、すきっぷ通り商店街のほうは個人店がどんどん減って、チェーン店がふえてきたということで、昔はサンバフェスティバルとかいろいろやって楽しかったんですけれども、そういうのが減ってきてまして、ちょっとさびしい思いが、個人の感想ですけれども、しております。かなり長いこと中央線に乗って都心に通うという生活をしていたんですが、おとし、会社のほうも卒業いたしまして、いわばお客様状態だったんですけれども、そろそろ武蔵野市に、役に立つということはおこがましいですけれども、何らかの提言ができればいいのかなと思ひまして、今回、応募いたしました。よろしくお願いします。

【川島委員】

吉祥寺東町に住んでおります川島と申します。生まれ育ってずっと東町におりますものですから、現在、70 歳でございます。というか、ひいおじいちゃんの代からずっと吉祥寺におりますので。職業は米屋なんです。私、米屋そのものも 4 代目で、吉祥寺の北口の駅前の三菱銀行、あそこに最初に開業したのが明治の末ごろでございます。それから 4 代目で、戦争で疎開して、今、東町にいて、そちらで営業しています。女子大通りなんですけれども、だんだん路線で商売できている、物販する店というのはどんどんなくなっているんですよ。そういう中においても、今現在でも地域コミュニティを大事にしようと思って、現在でも私は吉祥寺女子大通り光会の会長をやっていますけれども、お祭りだとか地域の子どもたちの盆踊りだとか、協力できるものをとにかく積極的に協力する体制をとるつもりで、現在も頑張ってやっております。また、吉祥寺のまちを 4 代前からずっとやっているわけなんですけれども、代々、ずっと見ていて、非常に残念なことがこのところでございます。後ほど言わせていただこうと思っておりますので、またよろしくお願いします。

【小林委員】

吉祥寺本町から来ました小林と申します。吉祥寺本町には 38 年住ませていただいています。勤務先は新宿の不動産業ですが、今まで仕事が結構忙しく、会社の行き帰りがほとんどという形でしたので、まだ現役で頑張っていますけれども、とりあえず、最近になって、武蔵野市の地域のために何かできることがあったらいいかなと思っていたときに、今回、この応募を知りまして、応募しました。

新宿でもそうなんですが、多分武蔵野もそうだと思うんですが、今回のコロナ禍において非常に困っている子どもたち、要は、シングルマザーも含めて、食事もろくにとれない子どもたちが結構おまして、そういった子どもたちに対してフードパントリー、食品を配ることでボランティア活動にも参加しておるんですが、そういった意味では、これから将来を担う子どもたちに対して、もっともっと、もちろん安心して楽しく過ごせる、将来に向けて、今の子どもたちを育てていきたいんですが、反対に現状として、困っている子どもたちがいたら、そういった方々にもぜひ手を差し伸べるような施策ができればいいかなと思っています。そういったことでぜひいろいろな意見を述べたいと思いますので、よろしくお願いします。

【鈴木委員】

鈴木直人と申します。御殿山に住んでいます。15 年ほど前に武蔵野市に住み始めました。それ以前は、主に海外に住居を構え、約 25 年、途上国の開発の仕事をしておりました。今回、このお話を聞いたときに、私もそろそろ地域のために何かしたいという気持ちが出てきましたので、貧しい人たちの視点、あるいは弱者の視点から、武蔵野市が将来に向かって開かれたすばらしいまちになればいいなという希望を持って応募させていただきました。よろしくお願いいたします。

【高橋委員】

こんにちは。中町から来ました高橋直美と申します。よろしくお願いいたします。私は、短期間海外で学んだ経験と海外で働いた経験があり日本を離れていたときもあったんですが、現在、市の商工会議所のほうでイベントとか、まち歩きツアーとか、そういったことに参加させていただいているんですが、時々思うんですが、コロナ禍のときでも、日本は海外に比べると対応がちょっと遅い。いろんなことにおいて。それは武蔵野市だけの問題ではなくて、国としての問題だと思うんですが、そして、本当に困っている人が声を上げられない。どこに言いに行ってもいいのかわからないとか、その手段

もわからないという方が多くいらっしゃると思うんですね。そのことを考えて、お子さんを抱えていらっしゃる方も、それから、高齢者の方も、障害のある方も、そういう方たちの声を拾えるように何かできればいいなと思って参加させていただきました。ありがとうございます。

【津田委員】

こんばんは。関前から参りました津田いづみと申します。これからよろしく願いいたします。私は、たまたま市報を見て、今回のこの会議に興味を持ちまして、申請をさせていただいた者です。自分は、大学病院で事務員として 40 年近く勤めておりまして、あと定年まで5年弱というところにまいりました。そして、市報を読んだときに、武蔵野市の長期計画ということで、自分が定年退職をしたその後の武蔵野市の状況というか、それを何らかの形で自分がかかわれたらと思いまして、今回、こちらの会議に参加させていただきました。もちろん、まだ現役ということもございまして、さまざまな患者さんなどからのいろいろな状況を日々聞いているような部署ですので、今回、今まで皆様の経験なさってきたお話とか、さまざまな視点からのご意見等も聞きながら、自分の意見も述べてこの会議に参加していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【長尾委員】

こんばんは。私、八幡町に住んでおります長尾裕一と申します。ずっと会社員をやっている、今も会社員なんですけれども、こういうことはほぼ何もしなくやってきて、今回初めてなので、わからないことだらけです。ただ、1つ、賛否両論あると思うんですけれども、住民投票の事件があってから、このまちは 39 年住んでいて、すごくいいまちだなと思っていたんですけれども、急激にいろいろなことが変わるのではないかという恐怖心もあって、オンラインワークショップにたまたま当たったので参加させていただいて、そこでこの会議を知りまして、今回応募したという次第です。できる限りのことは言わせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

【福井委員】

吉祥寺北町に住んでおります福井智広と申します。よろしくお願いします。20 年ほど前になりますか、市の中高生サプリーダーというものに参加しておりまして、そこで市政などに興味を持っていろいろ活動していたんですけれども、大学入学と同時に市を離れることになりまして、いろいろありまして、4年ほど前にこちらに帰ってまいりました。武蔵野市にもう一度自分の知見を還元できるような場を見つけましたので、こちらに応募さ

せていただきました。よろしくお願いいたします。

【宮田委員】

緑町に住んでおります宮田新作と申します。学校の教員なんですけれども、18 年前に職場が吉祥寺だった関係で、当時は通っていて、夜な夜なハーモニカ横丁で飲み歩く場として吉祥寺を認識していたんですけれども、やがて結婚した相手が武蔵野の人だったというのもあって、今度は住むようになりまして、住民票を置くようになりまして 12 年になります。最初は吉祥寺の駅に近いところにいたんですけれども、子どもも生まれまして、緑町に引っ越してきて、今、市内の小学校に通わせているという状況です。

ずっと仕事としては教員をやっておりますので、教育とか子育てとか、その辺が興味の中心ではあるんですけれども、大学時代に多少都市計画もかじった程度なんですけれども、そんなことも思い出しつつ、市報を拝見して、子どもも少し手が楽になってきたというのもあったもので、こういう活動もやってみたいなと思ひまして、応募させていただきました。よろしくお願いいたします。

【茂木委員】

緑町から参りました茂木と申します。よろしくお願いいたします。私は、市内の勤務先に 41 年ほど勤めて、この 3 月、定年退職。武蔵野市には在住 40 年目を迎えます。ということで、ここ 40 年ほど、生活のほとんど全てを武蔵野市で過ごしてきたということなんです。一方、市の行政ですとか、議会の活動ですとか、そういうのには正直全く無関心。市民活動にも参加したことはございません。退職ということで時間ができたということもありますので、終のすみかと決めた武蔵野市の今後の将来とか、あるいは抱えている問題等について、そろそろまじめに考えてもいい時期なのかなと思い、応募させていただきました。専門知識もなく、的外れな発言もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【弓削委員】

はじめまして。東町から参りました弓削雅明と申します。よろしくお願いいたします。武蔵野市に住んで 30 年近くになるんですけれども、非常にいいまちだなと感じていまして、さらに、子ども、孫のためにももっといいところになりたいという思いで今回参加させていただきました。私自身、途中、海外とかにも行っていたので、地元の活動というのは威張れるほどのことをやっていないんですけれども、私自身、仕事として企業の戦略立案ですとか、アライアンス、濃い場合ですと企業買収とか、そういった助言をしたりして、い

ろいゝな業界にかかわってきた経験がありますので、そういう経験を少しでも生かして、皆様のお力になればなと考ゑております。よろしくお願ひいたします。

4 事務局紹介

事務局の紹介を行った。

5 議事

(1) 趣旨説明 … 資料4、資料5

①第六期長期計画・調整計画について

②市民会議の位置付け

(2) 会議運営について … 資料6、資料7

①会議の進め方について

②報告書について

事務局より資料4、5、6、7に基づき市民会議の趣旨及び会議の運営について説明した。

(3) 意見交換

テーマ「市政全体について、いま思ふこと」

【A委員】

市政全体ということもあるんですけども、第六期長期計画について、一通り拝見させていただいて、それについて述べたいと思います。

一通り読ませていただきまして、この長計の中で幾つか注目すべきキーワードを私なりに見つけました。それは、今まで、第五期、それ以前の長計もありますけれども、それと比較してみると、武蔵野市は、今、成熟したまちであると認識しているんですけども、成熟しているからこそ、グレードを保って現状維持するだけでもさまざまな課題があるのではないかなと思うところに、さらにサブテーマで、六長では、「未来に挑戦！武蔵野市」。果敢に挑戦して、施策について失敗を恐れずに取り組むということが何回かコメントされています。その武蔵野市の本気度に私は期待しておりまして、第六期長期計画の調整計画では、私たち市民委員のほうで、果敢に挑戦する、失敗を恐れずというところを自由な発想で何らかの提案できればいいのかなと思いました。

長計から数年たちましたけれども、その間に、先ほど来、委員の方々から出ましたコロナ禍の対応で、これからニューノーマルの時代を迎えて、私は緑とか公園の仕事をしているもので、屋外に対してどうやって過ごしていったらいいのかなという、新しいオープンスペースとか、公園の使い方について考えていきたいというのと、あと、これから迎える夏の暑熱対策ですとか、健康を支える快適なまちということについても注目したいと思っています。

長くなって恐縮ですが、あと、5月末に東京都から首都圏直下型の災害について発表があったものを比べると、前回10年前に比べると、なぜか武蔵野市の最大の被害が広がっているというのが見てとれたんですね。それは何でなんだろうということで、一生懸命取り組まれているのに、それがどうしてそういう数字になっているんだろうかというところも着目して、災害に強いまちづくりというところも見ていきたいなと思っております。

【B委員】

すばらしいご意見の後に言うのを口ごもってしまいますけれども。

私は、とにかく今すごい気になっていると思うのは、子どもたちの教育とか、インクルーシブ教育とか、いろいろ言われてきていますけれども、本当に今手を差しのべてあげなければいけない子どもたちにそういうことが届いているんだろうかというところも、もっと具体的に話をしていきたいなと思っています。

それと、八幡町ですけれども、吉祥寺とかそういったまちに比べると、まだまだ畑が残っている地域もあります。でも、その畑がだんだんとなくなってきたのも事実なんですね。宅地がふえて、人口がふえて、税収が上がってというのは、市政にとってはありがたいことなのかもしれないですけれども、今回の雨水対策とかがあったときに、地面にしみていかない。降った雨が9割ぐらいそのまま流れていく。武蔵野市はそういう状態なんだよというお話を伺って、今、石神井川の貯留池を都がつくると言っているんですね。それ自体はつくっていいと思うんですけれども、武蔵野市の伏見通りの地下を掘って、中央公園に立坑をつくり、そこまでトンネルを伸ばしてくるという工事を東京都が決めてしまったんです。それ自体も、当の住民、八幡町に住んでいる私たちにどれだけ知らせてくれたの？みたいなところもあって、そういう市民を無視したものはこれからあってほしくないなと思うところもあり、行政と市民が風通しよく話ができるような市政であってほしいなというところを最近強く思っているので、この機会、この会を本当に充実した会にして、行政の皆さんと共に武蔵野市をよくしていくというふうに考えていきたいなと思います。

す。緑と子どもたちの教育と、あとは風通しのいい関係づくりというのを議論していけたらいいなと思っています。

【C委員】

細かいところを言うべきではないのかもしれませんが、一応、六長の中で書かれています。武蔵野市に残る唯一の武蔵野雑木林「独歩の森」がナラ枯れという、昆虫の害によって、主要の木のクヌギ、コナラが枯れてしまっています。すごく大事なもので、それをこれからどうやって保全していくかというのを考えられたらと思います。

幾つかあるので、バツと言います。

子どもの権利条例がこの1年間検討されているんですけども、コロナ禍でさまざまな課題が見えてきました。条例ができる、できないにかかわらず、課題が見えてきたんだから、これについては施策なり何かしていけないといけないかなと思っています。特にというわけではないんですけども、自己肯定感が世界では最低レベルだと。これは大問題で、彼らの人生にもかかわるし、日本の未来にもかかわってきます。彼らが将来楽しく生きていけるように、自己肯定感が下がらないように、どうしたらいいのかなというのを考えられたらと思います。

それから、新聞で見たんですけども、スクールカウンセラーを今ふやしていると。今というか、10年、20年、ずっとふやしているんですけども、それでも不登校はふえ続けていると。これも子どもの権利条例の検討の中でわかってきました。そのほか、ヤングケアラーが武蔵野市にもいるだとか、子どもの居場所がないだとか、問題がたくさんあります。そういうのを話し合っていけたらと思います。

それから、私はコミセンを7～8年やっているんですけども、そのベースのベース、コミュニティ構想というのが武蔵野市にはあって、昨年、50周年ということで冊子までつくったんですけども、これは本当にすばらしい考え方なんですけれども、これが実際に武蔵野市の地域の中で生かされているか、はなはだ疑問です。せっかくあって、50周年もやったので、できれば、そういうことをみんなで理解しながら、まちづくりをしていけたらと思います。

それから、六長から入った「平和」。項目立てされました「平和」なんですけれども、何か月か前かにウクライナ侵攻が始まりました。平和、当たり前のこと。六長のときにも言われたんです。当たり前のことをなんで書くのと。当たり前なんだけれども、いとも簡単に壊れてしまうんですね。平和は訴え続けないと守れない。これは、今後の七長、八長

にも残していけたらと思います。以上です。

【D委員】

市政全体について、私は、子どもの困り事などから、8年ぐらいずっと、それこそ五長調のころから、子ども関連の計画や、教育委員会だとか、あとは議会も極力傍聴したり、議事録を読んだりなどして、追いかけている感じです。ここ最近の市政全体について思うのが、他者に対してすごく余裕がなくなってきたというか、寛容じゃなくなってきたなと思うところがあります。この話をするには2分では少ないので、これは私が今感じていることとして、詳しい裏づけなどのお話は割愛させていただきます。

あとは、個人的にコロナ関係で思うのは、私、コミセンもやっているんですけども、あとは、住まっている地域での自治会の活動などもしておりまして、コロナで人が出なくなって、お年寄りがとても元気がなくなってしまった方が多くて、最近、あの人見ないなとか、あの人、最近、体が不自由になって、1人で住まうのが大変になってホームに入ったとか、そういった話を聞いたり、あとは、子どもも遊び方が変わってきているなと思うところがあって、コロナ後の六長をどう調整していくかというのにとっても興味があります。

とりとめもなくして済みません。以上です。

【E委員】

こういう市の委員会等に参加するのが初めてでありまして、今、皆さんがご発言になったような具体的な問題意識を語れるような状況にはありません。申しわけありません。冒頭言いましたけれども、子どもの無邪気な姿を見ていると、この子たちの将来について、我々が責任を持っているんだなと強く思っているわけです。それで、子どもたちが内輪でけんかしていたり、通学の途上で周りに大人がいなかったり、あるいは、交通上、危険な動きがあったりというのを見たときに、声をかけて注意をする。大人として注意をしてあげたいなと思うことがあるんですけども、どうも最近の情勢は、そういうことをやると危険人物に思われてしまうところがあって、非常に躊躇するんですね。そういうことが地域全体の子育てに実は大きな影響があるのではないかなと思ったりしております。過剰に子どもたちに危険なことをインプットするということがないようにして、地域全体で子どもを見守っていく、成長を促していくということができる環境ができたらいいなと思うのが1つであります。

もう一つは、六期長期計画の間に団塊の世代がいよいよ80歳を迎えようとする。それによってさまざまなニーズが変化してくるのだらうと思います。そういうことが六期計画

の中に十分反映されていればいいなと思いながら、これからその点もながめていきたいなと思います。医療、介護、財政、さまざまなことが、今、予見されていることが現実になっていく。そういう時期に差ししかかっているのかなと思っているところであります。

最後に、皆さんの中でご発言がこれからも続くと思うんですけれども、資料の中に、2年間たって環境の変化、情勢の変化を踏まえて見直すんだというお話が書いてあるわけですが、一体、環境の変化、2年間の変化というのは何なんだろうということについても議論ができたらいいいなと思います。ミクロの問題と、戦争だとか環境だとか、もっと大きな問題と両方あるんだと思うんですけれども、何が変わるだからどんな議論をするのかという視点も必要かなと思います。情勢変化のコンセンサスみたいなものがあつたほうがいいのかなと思いました。以上です。

【F 委員】

私のほうは、市政全般というか、ちょっとコアな話になってしまうかもしれませんが、長期計画にもあります安全・安心なまちづくりという観点で自分の住んでいる近くを見たときに、例えば、安全・安心、よく言われる自転車のマナーが非常にひどいのではないかなと。これは、市内を走っていても。私も毎朝武蔵境のほうまで自転車で通っているんですけれども、毎日、何回ヒヤッとするかということがあります。

もう一つは、通学路の問題でいくと、玉川上水のほとりが桜野小の通学路に一部になっているんですけれども、ややもすると、通学路は市内の通学路ではなくて、高校生とか大人の通勤路になっていて、通学路になっていて、車とか入ってこれないんですけれども、自転車は相当なスピードで入っていくということで、我が物顔に自転車専用道路ではないかという感じで走ってきますので、あの辺は取り締まるとかしていただきたいなと。それをやらないと、通学路の子どもたちが危険ではないかなと。これは相当昔から思っているんですけれども、なかなかうまくいかないのかなと思っています。

あと、安全・安心なというところだと、空き家の問題があるかと思うんですね。これは、地方だけの問題ではなくて、武蔵野市内でもかなり空き家があるのではないかなと。特に、私の住んでいる地域でも、エリアが武蔵野市の西のはずれにあるということも影響しているのかなと思うんですけれども、そこでもかなり空き家の問題が出てきて、空き家になれば、まちが活性化していかない。どんどん落ちていくという形になってきますので、その辺もあり、プラス、具体的に言うと、西に位置する桜堤、特に3丁目となると、駅からも遠いということで、お年寄りの方も非常に多くて、駅までのアクセスが、最近で

すとヴィーガーデンというほうにバスの本数が分かれて、3丁目のほうに、向台町5丁目というバスですけれども、本数が半分になって、かなり便が減ったということで、武蔵境の駅のアクセスもだいぶ苦勞されているという問題もあります。この辺もバスの会社と市が重々配慮した上で、バスの路線も考えていただきたいなと思っています。その辺も安心・安全なまちづくりという長期計画の中の一つのポイントとして声を上げていきたいなと思っております。よろしくお願いします。

【G委員】

私は、先日、全国ネットで問題になった、外国人の住民投票条例案について考えてみたんですけれども、これはたしか3か月以上居住する外国人にも住民投票できる権利を与えるという話だったと思うんですけれども、これは全国的に問題になったぐらいの話だったんですけれども、私は、ずっと海外の事業に携わってきた者として、あまりにもアレルギーが強過ぎるのではないかなと思っています。

ワークショップに先日参加させていただいたときに、第六期長期計画の中で人口のところを見てみると、そこで意見を申し上げたんですが、2023年に15万人の人口が2048年に16万2,000人ぐらいになるよと。それを見ると、外国人が2023年レベルでは3,800人前後。これは3%ですよ。これが2048年になっても4,400人。これも3%ということで、パーセンテージとしてはほとんど伸びないと。

一方、生産年齢人口を見ると、2020年に65%だったものが2048年には57%に8%ダウンすると。一方、老年人口は22%だったものが31%になるということで、生産年齢人口が落ちるということは、税収も落ちるということとイコールだと思うんですけれども、その中で、働ける外国人をどんどんふやしていくことも一つの方策だと思うんです。そういったときに、そういう人たちの意見が何らかの形で反映されるというのは非常にいいことなのではないかなと思っています。かなり右翼の街宣カーも入ってガンガンやったんですけれども、なんでそこまで騒ぎ立てる必要があるのかなということで、日本人特有の排他的な雰囲気ですごく感じまして、武蔵野市はもっと開けたまちにならなければいけないのではないかなと思っています。

1つトピックとして私が考えてきたことをお話し申し上げました。よろしくお願いします。

【H委員】

市政全体についてということなんですけれども、あいにく私も市政全体を語るまでは勉

強不足なんですけれども。そもそも第六期長期計画というのは、市としてこれから何を重点的にやっていきます、力を入れていきますという立派な冊子は書いてあるんですけども、一方で、これは、あれとあれは進めるけれども、もうこれはやらなくていいのではないかとということもひょっとしてあるのではないかと思うんですね。

私、この間たまたま旧西部図書館、武蔵野ふるさと歴史館に武蔵野の歴史を改めて勉強しようなどと考えて行ってきまして、ああ、こういうところだったのかと思いました。正直、あっという間に見終わりました、おそらくあれをつくったときは、旧西部図書館の施設をそのままうまく利用しようということから始まったと思うんですけども、私はあの施設は役割を終えているのではないかと思うんですね。役割を終えているというのは、簡単な歴史というか、非常にダイジェストで歴史があって、戦後はこうなりました、発展しましたというか、戦時中のところでほぼ終わっているんですね。これが第1展示室というところにあって、第2展示室でも何かやっているんですけども、何かよくわからない展示で、あと、広い、誰も使っていない、あれは何でしょう。集会室なのか、本がたくさん置いてあるところがあって、ここは本当に要るのだろうかと思って帰ってきました。

もちろん、あそこで働いている方は一生懸命やっていたらっしゃるとは思いますが、それがどうこうじゃないですけども、これは進めるけれども、これは見直すということも今後あってもいいのではないかとということの一つの例かなと私は感じた次第です。

【I 委員】

今、H委員が歴史資料館のことを話したので、その件について先に話させていただきたいと思います。

歴史資料館そのもの、私自身もそもそも要らないのではなくて、現在の場所よりは、吉祥寺の武蔵野公会堂が建て直しをせざるを得ない状態になっている中で、あそこに美術館だとか歴史資料館を併設して、なおかつほかにも併設するものがあると思うんです。それは、今、自分のほうで考えている地域の防災館だとか、あるいは、第3分団詰め所の移設だとか、いろいろとできることがあるのではないかと考えております。資料館が必要ないのではなくても、私自身もあそこで古文書を習っているものですから、勉強に行っております。

それで、六長のほうも全部読ませていただきました。基本目標の中に「資源を活かした持続可能なまちづくり」と書いてあるんですよ。未来に向けて限りある資源を活かしたまちづくりを推進すると。

その例として、吉祥寺北口の駐輪場を売却したのは、限りある資源を減らしてしまったのではないですか。売った金額と買った金額の差。なおかつ、買った側はその数倍の利益を得ていると。これは資産を減らしたことになるのではないかと。そういった問題では、この後のいろいろな議論の中でまた申し上げたいと思います。

幅広く市民の参加や意見を求めることが武蔵野市方式という市政運営の一般的なスタイルだと。これが市民自治の原則だと。それもうたっているわけですよ。だけど、結論ありきで拙速に進めることが非常にお得意なようで、拙速という言葉を辞書で調べましたら、でき上がりが下手でも仕事が早いことというんですね。本当に早い。

実を言うと、去年の10月27日に武蔵野公会堂で駐輪場を売却するための説明会を行いました。それも、広報じゃないですけども、募集、何名ですよとかけておいて、実際には来た人全員を説明会場に入れたんですけども、27日に説明会をして、私はそのためにちゃんと手紙を出して入れましたよ。通してくれてありがたいと思って行ったら、全員入れましたという話になったんですけども、そのときに何も言わないで、さんざん意見を聞いておいて、明くる日に駐輪場の売却の契約ができているじゃないですか。その後、今度、12月23日に2回目の説明会を商工会議所でやっているんですよ。そのときも売却のことは言っていない。そのとき、市長さんはいなかった。こんな市民を軽視した、ばかにしたガス抜き説明会みたいなことだったら、参加した者の時間を返してくれと言いたくなるぐらいですよ。だから、今回の議論も、ここで皆さんが議論して、討議した内容が、本当に伝わるのかどうか、半信半疑なんです。

「長期計画の役割」というのがあって、「速やかな対応が特に必要と思われるものを除き」と書いてある。速やかな対応が特に必要なものを除いて、原則として計画に基づいて行う。現状の駐輪場の台数、九百何台ありましたよ。それを売却したことによって580台ぐらいだと思った。今度新しい場所にはそのぐらいしかできない。にもかかわらず、台数も減らしているのに、そもそも速やかな対応が必要だったのかどうか。それも極めて疑わしいじゃないですか。

こういう状態の中で、今回、六長の議論がありますよ。絶対何か言わせてもらわないと問題だと思って出てきたのがまた1つ。この問題についてはさらに詳しく後ほど言います。

それから、子どもと教育の問題で、皆さん、知っているかどうかかわからないですけども、各地域に地域コーディネーターという方がいらっしゃいますよね。学校と地域の橋渡し役。学校で課外授業があったときに、コーディネーターが橋渡しして、どなたかを紹介

する。

コーディネーターというのは、任期とかあれが定まっていないのかな。ご存じですか。

【総合政策部長】

任期はちょっと確認しないと。あるとは思いますが。

【I 委員】

もしないのだとすれば、地域選任選挙みたいなものが必要なのではないかと思っております。いわく学校の校長先生にお伺いしたら、地域のことを私は何も知らないので、100%コーディネーターの方を信じていましたと、そのようにおっしゃってました。

もう一つ、子どもと教育の問題ですけれども、食育の基盤となる桜堤調理場が新設というか、新築されて完成いたしました。これは非常に評価ができることなんですけれども、学校教育における食育推進のため、自校調理施設の整備を進める。要するに、給食センター、調理場の大きなものを建て替えておきながら、各学校に調理場を全部つくらせていく方針でいますよと。それが食育推進のためだと。食育というのは自校式でなければ推進できないんですか。私自身も、たまたま職業柄、三多摩管内でしたけれども、遠くは奥多摩のほうまで行きましたけれども、全部で 13 校ぐらいかな。食育事業をやってきました。何も自校式じゃなくたって食育なんかできるんですよ。そんなことを六長の基本の中でうたっているんだ。何かおかしいと思うんですよ。

いろいろありますけれども、時間が時間なので、このぐらいで、また後ほど。

【J 委員】

今、真剣に話を聞いていたら、何を言っているか、ちょっと戸惑うような感じがしますが、私は、将来を担う子どもたちに対してフォーカスをしたいと思っています。いろいろな施設、いろいろな項目でこれからいろいろな話し合いがあると思うんですが、私は、これからも武蔵野市、当然、武蔵野市を含めて、日本をつくっていくのは若い子どもたち。この子どもたちにしっかりした教育と、しっかりした生活を我々がフォローしていかなければいけないということを強く思っています。

特に、明るい話もいいんですが、負の話として、食事もなくにとれない子どもたち、それから、さっきヤングケアラーの話も出ましたけれども、介護によって学校にも行けない子どもたちがいるという事実があったとしたら、それに対してどうフォローしていくかということもすごく大事だと思います。明るく先を向く話も大事ですけれども、現実には困っている状況を何とかしていかない限り、先に進まないのかなという感じがしますので、そ

の辺をポイントに置いていきたいと。

ただ、そのためには、ただあるべき論を言ってもしょうがないので、現状のデータ、どのぐらいいるのかを含めて。なかなかデータというのはとりにくいとは思いますが、例えば、母子家庭が何世帯あってどうかとか、そういったデータは当然あると思いますので、データをベースにしながら、対策というか、前向きな意見を述べていきたいと思っております。以上です。

【K委員】

市民参加というテーマのもとに、2つ意見を述べさせていただきたいと思います。

最初は、政策づくりにおける市民参加。今、私たちが参加しているのも一つなんですが、市民参加というのはとても聞こえのいい言葉で、はやりの言葉でもあるんですけども、おそらく意見の反映という資料6に書かれていることをもう少しきちんと、そのフェーズごとにフィードバックがあるといいなと思いました。今後の話なんですが。

例えば、この前のオンラインワークショップも参加させていただいたんですが、ファシリテーターの方は非常によく頑張っておられました、実際にそれがどういうふう to 今後議論になっていくのか、あるいは、あれで終わりで、どこで誰がどういうふう to というのはよくわからないんですね。ひょっとしたら、きちんともうプランができているのかもしれないんですけども、ちょっとわからないというところもあって、おそらく多くの市民が、事実がよく認識できていないかもしれないというのを感じました。さっき、まさにI委員が言われた、いわゆる市民参加の意義というのはとても大事なことで、ぜひきちんとフィードバックをしていただきたいというのが1点目。

2点目は、実は市民参加というのは、政策づくりだけではなくて、実際にやるという実施の段階でもとても大事なことだと思うんですね。長期計画の実施プランというのはたくさん細かく書かれているんですが、いわゆるボランティアの参加だったり、特に、私は今年からコミセンの運営委員になって、コミセンのことを少し勉強させていただこうかと思って始めたんですけども、男性の、特に年寄り、私たちの年代は弱者に近づいている年代層なんですね。そういう方たちがもっと何で積極的にコミセン活動に、特に男性なんですけれども、女性は非常に参加する方が運営委員の中でも数が多いんですけども、どうして男性の参加が、いわゆる高齢者の参加がほとんどないんだろうなというのはとても考えさせられ始めました。

また、オンラインのときでも発言したんですけども、企業の社会貢献事業という、企

業も実は武蔵野市民ですね。そこに働いている方が全部住んでいるわけではないにしても、そういった企業の社会貢献事業を実際に政策実施の中にどういうふうにしたら取り込んでいけるんだろうなというのを少しずつ考えていきたいなと思っています。この2点です。ですから、政策立案のほうはきちんと考えておられるのだろうと思うんですが、いわゆる実施の上での参加ということをもう少し掘り下げて、みんなで考えていけたらいいなと思っています。以上です。

【L委員】

私がこの委員に応募させていただいたのは、長期計画を読ませていただいて、当たり前ですけども、福祉とか介護とかということは当たり前のようになっているんですけども、先ほどの方も、お子様たち、ヤングケアラーのお話をされていましたが、結局それは、市のほうでもうちちょっと高齢者に対して何かをするとか、手を差し延べれば、そういうお子様たちの数も当然減っていくと思うんですね。生活をもうちょっと支えるとか、困窮者に対する何かできることがあれば、ヤングケアラーで学校にもなかなか行けないということが少なくなっていくと思うので。これから少子高齢化になっていくので、子どもたちの教育というのは当然大切ですし、海外から来ている方たちが働きやすいように、教育をきちんとして、その後もきちんと働けるように何か考えるということが武蔵野市でできたらいいなと思っているんですね。

武蔵野市というのは、吉祥寺を抱えていて、住みたいまちナンバーワンとかナンバーツーとか、ずっと騒がれていて、生活をしていて、本当にそうかなと時々思うことがあるんですね。それは、高齢者の人が住みづらいということは、当然、それにかかわる家族の方たちも結局住みづらいということになってしまうと思うんですね。お子様たちが学校に行くことが難しいというふうにもつながっていくと思うので。結局、どの世代だからとかということではないと思っているんです。

最近、吉祥寺で商店街を見て特によく思うのは、チェーン店ばかりの、ドラッグストアばかりになっちゃったんだなというのを、本当にこのごろよく思っていて、同じような名前のドラッグストアがいっぱい並んでいるということばかりになっていて、そして、逆に、銭湯が今は1軒しかないんですね。武蔵境に1軒だけ。歴史のある吉祥寺の弁天湯ですとか、市役所に近いところにも何軒もあったんですけども、結局、今は1軒しかない。そうすると、武蔵野市でたまに配布している券がそこしか使えないのかというふうになると、それも変な感じがするなといつも思っているんですね。

だから、私たちが考えることは、たぶん、今ここの段階だけではすぐに解決できないと思うんですけれども、何か取っかかりになって、ずっと続けていかれるような政策を考えていければいいなと思っています。ありがとうございます。

【M委員】

はっきり言いまして、私は朝から夕方までずっと働いておりますので、今の武蔵野市の状況というのは、本当に部分的なものしか情報として入っておりません。ですが、第六期長期計画のところで、私が勤務しています大学病院でも、今、多様性を認め合う環境をつくり出すということが第一の目的になっておりまして、これが日本全国的に、いろいろな企業の間でも、もちろん社会の普通のコミュニティの中でも、要は多様性を認め合うというところが非常に進められる必要性があるんだなと、見て思いました。

例えば、1つのちょっとばからしい話なんですけれども、新しく病院を建て直しまして、5月の中旬ぐらいにグランドオープンした大学病院なんですけれども、点字ブロックが今までございまして、駅のところから正面玄関まで点字ブロックをつくったんです。我々健常者は、点字ブロックがあれば視覚障害者の方はもうそれでオッケーだろうと思う部分があるんですけれども、実は視覚障害者は、生まれながらに視覚障害者ではなくて、糖尿病とか、網膜症とか、病気を成人のときに患って、途中から視覚障害者になる方は結構多いんですね。そういう方は白杖を使いこなせないんです。点字ブロックの上を歩いていかれるんですね。ですので、点字ブロックが、例えば斜めに曲がっているところでも、足の感覚が全然わからなくて、そのまま真っ直ぐ行って、全然違うほうに行ったりとか、そういうことを病院をつくる建築関係の者が全く気がついていないというか、要は多様性ですね。自分たちの健常者の視覚でそういう建物をつくっているとか、そういうことは結構たくさんあるんですね。

それで、タクシーが間違えて病院の敷地内に入らないように、パイプを立てたりとか、大きな表示を立てたりとかするんですけれども、また視覚障害者の方なんですけれども、実際に駅から横断歩道を渡ると、その掲示に当たってしまうこともあって、多様性というのは、今は視覚障害者の件のお話を差し上げたんですけれども、武蔵野市の中にももちろん若い子どもたちから、その子どもを育てる親、子どもがいなくてずっと働いている若者や中年、高年の方、そしてリタイアして高齢者になって地域に入っていくという方もいるんですけれども、吉祥寺は、住みたいまち、今、もしかしたら1位を逃してしまったりとか、また1位に返り咲いたりとか、いろいろしていると思うんですけれども、そういう人氣が

ある場所があるので、若い方たちを呼び寄せる力はあると思いますし、大企業はたくさんありますので、税収もたくさんあるんですけれども、人の力を全て、例えば、働いていると、なかなか市政に参加できないんですけれども、実際には、私も子どもがいるときは庁舎にも来て、PTAとか、そういうことも行ったんですけれども、子育ての手が離れますと、ほとんど市政に全然かかわれないということがございまして、全ての年代が市政にかかわっていくようなコミュニティというか、例えば、武蔵野市に転居してくる方には、先ほどおっしゃった旧西部のそういうところとかの、有料かどうか、ちょっと私、わからないんですけれども、例えば、武蔵野市のほうに転居されてきた方は、そういうところに必ず足を運んで、武蔵野市ってこういうところなんです。そして、よいところとか、もちろん悪いところも一旦見ていただいて、長く武蔵野市に住んでいただいて、ここで家族をつくっていくという形のまちづくりをすれば、今後の人口の少しずつではあると思うんですけれども、人びとを武蔵野市に集めていけるというような、要は、いろいろな考え方でこの会議の中でさまざまな方の意見を、今、聞いていて勉強になっておりますので、そういうことの会にしていいただければ、本当にありがたいなと思います。

大したお話ではなかったんですが、申しわけございません、よろしくお願いいたします。

【N委員】

私のほうからまた話させていただきたいと思います。皆さんに比べてそんなに多くの知見がないので、恥ずかしい話なんですけれども、具体的な話をしたくてこの席に出てきています。例えば、今言った高齢者の方が武蔵野市はふえてきて、もともと住みやすい、高齢者にやさしいまちということを書いてきたんですね。それなりにいろいろなことをやっていたんですけれども、例えば、ムーバスがそうなんですけれども、昔決めた経路だけ。今、八幡町が畑から住宅街に変わって、人の住む場所も変わってきたり、人口のふえ方が違ってきているんです。この辺を、例えば、ムーバスの経路を見直すとか、もう少し多めにして、もちろんバス会社は競合があるので、そこは話し合うしかないんですけれども、そういうところをまず具体的に見直してほしいというのが1つ。

あと、私のほうは三鷹駅で自転車を使っていまして、自転車は何十年か前は駅前にずらっと並べてあって、これを何とかしようと始まったんです。一時貸し、定期貸しとあったんですけれども、だんだん定期貸しがなくなって、しかも値段がどんどん上がってくというか。今の物価みたいなものなんですけれども、そんな形で、たぶんコロナになってガラガラの状態なんですね。コロナが終わったとしても、テレワークが始まって、人の流れが

随分変わってきている。だから、今、ガラガラなところをわざわざつぶして、もしかしたら吉祥寺の駐輪場の話にもつながるかもしれませんが、どこかに売却するという話があるのか、何か建てるという話があるのかわからないんですけれども、その辺のところは今の情勢をかんがみて見直してほしいなというのが1つ。

あと、これは賛否両論あるので、私も詳しく調べないとわからないところがあるんですけれども、実は住民投票で右翼団体が騒いだりとか、どっちがいい悪いはないんですけれども、武蔵野市に長年住んでいて、こんなに何もしなくてもと言ったら失礼ですけれども、周りがしっかりしていて、皆さんがしっかりしているので、よく回っている市はないと思っていたんですけれども、ここのところ、いろいろな話がスルーして、先ほどおっしゃっていた方もいるんですけれども、先に決まっていて、形をつくるために少ない人数でどんどん決めてしまっているのではないかなと。これは本当は違うかもしれませんが、そういうふうに感じる場所があつて。外国人をふやす、ふやさない。それは意見がそれぞれあるのであれなんですけれども、あまりにも早くて、もうちょっとよくみんなで話し合えばいいのではないかな。もしくはアンケートをとるなり、駅前で昔だったらビラを配ったり、保育園の話もよく皆さんやっていて、署名したりしていた。そういう間を与えてほしいなというのが。とにかく早過ぎて。よければいいんです。だけど、いいかどうか、どっちかの未来しか選べないですから、誰もわからないんですね。終わってしまってから失敗したとなっても、後で取り返しのつかないこともたくさんありますので、もちろん、早くていいこともたくさんあると思うんですけれども。その辺を、今回参加させていただいて、皆様と話をさせていただければなと思っています。よろしくお願いします。

【O委員】

テーマが「市政全体について今思うこと」ということで、このテーマを見たときに、まいったなと思いました。市政全体って何だろうと。個別のことについていろいろお話しすることは、おそらく何かしら私もできるかと思うんですけれども、まず市政全体について皆さんがわかっていないという状況がわかっていないというか、私がわかっていないという状況がおかしいのではないかなと思っています。

そもそも、皆さんよく勉強なされていらっしゃることはわかりますし、それはすばらしいことなんですけれども、そうやって勉強しなければ、自分から入っていかなければ市政というものがわからないという状況。それが私は問題だと考えております。そもそも何が市政なのか。それは国政の問題なのか、都政の問題なのかわからない。そういった面もあ

るかと思います。

これをどういうふうに解決していくかということなんですけれども、市の方々に頑張っていただいて説明していただくということはもちろん1つありますし、あとは、自然に市の市政というか、それにかかわるような、漠然としているんですけれども、そういった活動に自然に強制参加という言い方をさせていただきます。魅力あるものにして、そこに入っていくことで、こういうことを市はしているんだなということを把握して、それで市政を理解するという場をぜひつくっていただければなと思っております。

市政全体。おそらく、皆さんも市政全体についてはおわかりにならないのではなかろうかと思いますが、それがわかるような武蔵野市をぜひつくっていければなと考えております。以上です。

【P委員】

たくさん意見をお聞きして、感心するばかりなんですけれども、調整計画ということなので、近年、大きく変わったことは何かなということで、先ほどD委員とかE委員あたりもおっしゃっていたと思うんですけれども、一番はコロナというのが大きく影響したというか、この社会を変えたこととしてはコロナかなと。働き方も変えたし、学校の学び方も大きく変わったというのは、これは何か調整する、あるいは今後考えていく上で重要なことかなと思います。

あと、学校で言うと、1人1台のChromebookというタブレットが急速にここ数年で進みまして、これからの小学生以上は、タブレットを使える子どもたちがどんどん大人になっていくということで、そういうものが前提になっていく社会だということで、これも大きな変化かなと思います。

あと、SDGsという言葉が意外と広まってきて、子どもたちは誰でもみんな内容を知っているとか、いろいろ変わってきていることがたくさんあると思いますので、そんなことからひもといていければいいかなと思います。

私個人としては、一番興味があるのは自然災害です。これは六長にも書いてあるんですけれども、近年、風水害であるとか、地震の不安は確実に高まっていて、もちろんそういうのを前提につくられているのはわかるんですけれども、もうちょっと本気でその辺をやらないといけないのではないかと思います。

武蔵野市は大きな河川がない関係で、水害についてはそんなに危機感がないと思うんですけれども、一方で、水とのかかわりが深い市ではないかと思っておりますので、水の奪

い合いみたいなことまで考えなくてもいいのかもしれませんが、「水」というのが一つ大きなキーワードで、災害、地震への備えというその辺はもうちょっとギアを上げないといけないのかなと思っています。読むと、たくさんいろいろなところに書いてはあるんですけども、本気度がとうかなという感じです。

あと、もう一つ、先ほどH委員のほうから不要なものは少し考えていこうと。すごく大事な視点ではないかと思います。こういう計画は、どうしても総花的になりがちで、重点政策が8つあると書いてあるんですけども、8つは重点なのかと。重きを置くというのは1個か2個で。よく学校の先生も話は3つにしないと。校長先生の話は3つというふうに決まって、あまりたくさん言っても子どもは覚えられないから3つにしないというふうのがありますけれども、8つ重点があると、どこが本当に重きを置いているのかがわからなくて、どうしてもそうになっていってしまうのだと思うんですけども、積み重ねていくと。そういう中でも、どこに重きを置いていくのかというのをもう少し絞って、軽重をつける視点も大事ではないかと思います。以上です。

【Q委員】

私の勉強不足というか、認識不足の責任なんですけれども、そもそも長期計画があるということ自体を全く知らなかったというか、意識していなかった。今回の市民会議の募集を見て初めて知ったというのが正直なところです。

私みたいな人はたぶん、これは想像ですけども、そういう方が多いのではないかな。特に若い世代、学生はもちろんそうですけれども、多いのではないかな。市としては、こういった会議の場をいろいろ設けて、非常に皆さんの貴重な時間も頂戴しながらつくっている。

このガイドブックだけざっと拝見させていただいて、これはもしかしたら個別に各家庭に配られているのかもしれないですけども、自分が目にしたのはきょう初めてということで拝見したんですけども、体系がよくわからない。目指すべき姿は当然わかります。基本目標がある。その下に基本課題があったり、重点施策があったり、重点施策のもとに基本政策がたくさんある。さらに、この下に個別の施策がたくさんあるんでしょうけれども、要は、どういう体系をつくったとしても、最終的には個別の施策がどういう形で行われて、それが評価されているのかということが一番大切で、その積み重ねが評価されるべきであって、体系をきちっと整えて、文字面を合わせたからといって、はい、でき上がりましたよということではないはずなんです。

そういう意味では、皆さんが感じている具体的な事例をこういった場できちっと出して、

問題意識を共有した上で、少しでもそれを改善する意見を出していけるというのが我々に求められていることだと思いますし、自分もこれから少しずつ勉強しながらやっていきたいと思います。

特に感じたのは、エコ re ゾート。これのどの体系に基づいてあのエコ re ゾートができたのか、よくわかりませんが、活発に使われている様子が全くない。相当お金がかかっているはずですね。コロナ禍ということで、いろいろ活動が自粛されている部分があるというのは承知しておりますけれども、ああいう大きなお金を使ったものについては、特にきちっと市民の評価を得るということも考えていく必要があるのかなと思っております。

雑駁で申しわけないですが、以上です。

【R委員】

最後になりますけれども、お話をさせていただきます。

こちらにきょう、自転車で向かって、20 分ぐらいかかったんですが、その間、正直ジレンマを感じていました。市政に対するいろいろな期待があると思いますし、市政がやらなければいけないこともいっぱいある。その中で、今、皆さんがいろいろなことをおっしゃったように、何とかして最大公約数を見つけなければいけないのか、それとも、優先度をつけていかなければいけないのか、これは私自身まだ迷いがあります。当然全てやりたいですし、その中で 100 人が 100 人賛成する案というのはなかなかないのが行政だと思いますので、そこは皆さんとの話し合いで、少しでもこういった調整に寄与できればいいかなと思っております。

その観点で反省なんですけど、こういった長期計画、私も知りませんでした。こういうものが出るのであれば、事前にしっかり読んでくるのがマナーだと思いますし、あと、例えば、きょうのアジェンダなどはメールなどで送ってもらって、事前に見るとか、今、ネットの時代なので、少しでも会議が効率的にできるようなことはほかの会議でも取り入れていただきたいなと思います。

今、とある企業の中長期計画の立案のサポートをしているんですが、私から口を酸っぱく、計画をつくるのが目的ではないと。一方で、前回、前々回、前の計画のフィードバックをしましたかと言っても、誰も答えられない。行政と企業は違う部分があるんですが、こういった立派なものをつくるのはいいんですが、計画をつくる、調整でアップデートしていくということがあくまでも目的にならないように、魂のこもったもの

ができればいいのかなと思っています。

あと、これは個人的に心配な部分なんですけど、私が班長じゃないので、それをあえて言うとか、こういった委員会のメンバーにもっと広がりもあってもいいのかなと思っています。現役の子育ての世代とか、介護をしている方とか、大変だから来れないとかあるとは思いますが、私でも 20 年ぐらい前に会社員をやっていたときにこういった会議に出ましたし、やろうと思えばできる。今、ネットで便利になっていますので、そういった幅がもっと広がったほうがいいのではないかなという印象も持っているので、私自身、近所の方とか、いろいろな方と話をし、幅広い意見をすい上げられたらいいのかなと思っています。以上です。

【総合政策部長】

先ほどご質問いただいた点で、地域コーディネーターの任期ですけれども、地域コーディネーターの任期自体は1年です。ただ、教育委員会のほうで更新は可能となっているので、1年以上されている方であれば更新がされたんだろうと思います。ただ、細かい手続をどうされているかはわかりませんが、そういうことです。

あと、話の中で1点、事実関係で銭湯のお話が出てきたんですけれども、銭湯に関しては、お話しいただいたとおり、今、営業中が1軒で、休業中が1軒です。休業の状況とかは個別のことなので、詳しくはお話しできませんが、今のところ、再開は未定という状況だと伺っております。以上になります。

【C委員】

まず、意見の前に確認なんですけれども、市民参加、市民の意見を聞くという点なんですけれども、これは、その発言者のことがすぐに実現するというのが市民意見を聞いたことになるのかといえ、そうではないと思っています。ある人の意見は、またある人の反対意見だし、そこをうまくやっていってくれているのがたぶん行政だと思っているので、言ったことのとおりになっていないじゃないかというのは、市民意見を聞いていないというわけではないと思います。ここを確認したいです。

それから、実は、聞いてくれているときがよくあって、5年くらい経ったら実現したということがあったりするんですね。なので、長い目で見ないと、売却してしまったとか、そういうのは結果が出ているのであれですけれども、何かをつくろうというときには、長い時間を見たほうがいいかなと思います。

次、意見です。やめてもいいことはやめていったほうがいい。確かにそのとおりだと思

います。ただ、ここで、ふるさと歴史館が例に挙げたんですけれども、ここは歴史館という名前ですけれども、公文書館という役割もあって、すごく大切な仕事をしてくれています。教育にも利用されています。私は平和事業実行委員会のほうもしているんですけれども、私たちの委員会のほうは、主に国内からの目線で資料を紹介したりしているんですけれども、ふるさと歴史館は、アメリカの公文書館に行って、そこで英語の軍事資料を分析して、我々が理解できる形にして、それもたぶんたしか1年か2年、まるまるかけて資料をつくってくださって公開してくれるということもやってくれています。一瞬で見るのが終わってしまった。一瞬で理解できるぐらいまでかみ砕いてくれているんだと思って、見てあげたほうがいいかなと思いました。

それから、M委員の中で、いろいろな人が市民参加という話だったと思うんですけれども、これって、実はコミュニティ構想、この部分に書いてありまして、武蔵野市民は、市民参加が最終的な目的の一つとしてコミュニティをつくっていかうということが書かれています。それも含めてコミュニティ構想が市民に広がっていったらいいかなと思いました。

それと、B委員からインクルーシブ教育の話が一瞬出たんですけれども、子どもの権利条例検討委員会の中で委員長が、インクルーシブ教育は難しいねと。できないねと。何でかといったら、少人数学級じゃないからなんだよとおっしゃっていました。ということで、インクルーシブ教育もそうなんですけれども、そもそも少人数学級というものがこれからの子どもたちに必要な環境なのではないかということも考えていけたらと思います。以上です。

【B委員】

先ほどI委員からご指摘をされた地域コーディネーターです。任期は1年ということなんですけれども、実態は、複数年経験しております。私も、いろいろな人がかかわって、世代交代というか、1回決まったら、永遠とその人、みたいな悪い癖がこの地域にはあって、そういうのは本当に代謝をよく変えていったほうがいいなというのをやっている自身がすごく思います。

たぶん各地域で受けていらっしゃる方というのは、学校の推薦だったり、地域でそれぞれいろいろな活動をされている地域のよく顔の知れたおじさん、おばさんみたいな感じの方たちがやっていて、かれこれ6年ぐらいになるのかもしれないぐらい同じ方がやっている地域もあります。でも、変わっている地域もあるんです。なので、代謝をしていくというのは本当に大事なことだと思うので、流れがいい、一生それをやっていて大丈夫みたい

なものではなくて、市政のほうも柔軟に変わっていけるようなことが、市全体がそういうふうな流れになっていくといいかなと思います。

それと、今、早速質問があったときに調べてくださったんですけども、そもそもちゃんと知っていてよ、みたいなところがすごくあります。あっちの課とこっちの課の連絡がとれていないというのは、聞きに行ったほうからしたらあり得ないことなんですよ。向こうで聞いてください、みたいなことを言われることが多々あって、担当の方たち同士の連絡がとれていないというか、意識が共有されていないというのはとても残念なことだなと思っています。

今、防災のほうにかかわっているんですけども、防災のほうは、今度、地域防災計画の見直しが入るということで、幾らか関係各部署、関係各課が寄り添ってきています。それは本当に大事なことで、これから立てていく計画のところにも、その課だけがやればいいというのではなくて、全庁を挙げて、みんなで同じことを知っていようよみたいな感じになっていくといいかなとすごく思います。

地域コーディネーターは言っておきます。そういうご意見がありました、みたいな感じで。私も変わったほうがいいなと思う部分が非常にあるので。

【Ⅰ 委員】

今、地域コーディネーターは任期が1年だということを初めて知ったんですけども、そもそも任期が1年だからと、どのように市民に伝わっているのか。それがまずないんですよ。このコーディネーター、誰が指名しているかといったら、学校の校長先生なんですよ。地域コーディネーターは、いやしくも一応戴いていますので、公僕ですから、公的な仕事を請け負っているんです。

それと、防災のことが今出たので、防災、私も長いこと消防団のほうにいまして、退団してから15年たつんですけども、今、地域防災情報交換会を長いことやっていましたけれども、その中で、当初は消防関係者、OBの連中がほとんど地域を代表してやってきたんですよ。話がポンポンポンと通じてしまうものですから、意外と行政としてもやりやすかった。私もなるべくそういうのはよろしくないなと思って、すぐ副会長に防災関係というか、消防関係ではない人間を引っ張り込んで、会議につれて行って、みたいな。今度、会長になった人は、まるきり防災関係は全然知らない人。地域のコミセンの副会長だった人が、うちの地域の防災会の会長として参加していただいていると。副会長にはまた別の防災関係に全然関係ない人に参加してもらっている。そういうふうにして行って、いろい

ろな角度から入っていかないと、ポンポンポンと、はい、ご苦労さんでした、みたいのでいつも終わってしまうんですね。それではいけないなということを感じました。

(4) その他

- ・ 次回の予告や事務連絡
- ・ 質疑応答

事務局より、次回の日程及び議題について説明した。

【G委員】

次回のグループ分けなんですが、今、18 人いらっしゃるんですけども、どういう形でやるわけですか。

【事務局】

グループ分けのほうは事務局のほうで地域、年齢、男女別にバランスよく分かれるように決めさせていただいておりますので、それは当日発表させていただこうと思っております。

【G委員】

例えば、自分がこの分野で参加したいということは可能なんですか。

【事務局】

3つのグループに分かれるんですけども、それぞれのグループで全部の分野の話し合いをしていただきます。

【G委員】

わかりました。

午後9時 閉会